

+

FAUST IN MARIENBAD by The quest for Art : 有馬かおる

思えば、私は作家性重視の生き方（ロードムービー）を選んだ。そして「アートとは何か。人とは何か。幸せとは何か。」を問い続けてきた。今回は5つの壁に5つのテーマがある。彫刻、ペインティング、ドローイングをテーマごとに展示する。「私（人）の内と外」、「途中と永遠」、「社会との関係」を形にする。5つの壁（5つの展示）を通して見える「私」の展示だ。そして人の在り方と生き方の展示。

21歳の時、ボイスの資料映像を見た。その時彼は言った。「コレを見て、わたしにもできる！と思ったら、それは君がアーティストだからだ。後はやるか、やらないかだ。」何者かに成りたかった私は飛びついた。続ければアーティストでいられる。気づけば50歳を過ぎていた。

この展示会は、ファウスト（小説）：生に執着し、努力し続ける行為。

去年マリエンバートで（映画）：変化し続け終わらない永遠。

ミイラ肖像画：人の死と藝術による永遠。から影響を受けています。

この展示会は、あなたにとって、始まったばかりですが、既に終わっていたり、未来で始まったりしています。形は在り方、生き方で変化し続けます、繋がりが広がる線のように。

在り方：

1) 線について

- 空集の音の間に線は生まれ約束になる、約束は景に入り太極を持って風を待つ。
- 手を重ねると線が生まれる。手を離すと線は消えるのではなく広がり、全てを繋げている。

2) 人は「本来無一物」という空集合<空集の芽>を皆が持っている。

3) 1) と 2) より、外は外で、内は内で（共有）繋がっている。

- モノは視点や思いによって見え方が変化するが、本質は変わらない。

<うちがうちそとはそとのんじやった>

生き方：

- ずっと途中で先端。
- 生に執着し努力（変化）し続ける行為
- 寿命（粹）があるから瞬間が美しい。
- 日常（日々）の中の美しさ。
- 何もない」の中にある美（愛）。
- 太極思想
- 形にならないモノのを要素（形）として作品にする。

まとめ：

形は在り方生き方で変化してゆく。

人（形）とは「何」だ。

人が生きるとは「何」だ。

<うのなとなのまにまにせもしもしらずいのみふるふる>

<FAUST IN MARIENBAD>

<The quest for Art>

+